

新型コロナ対策をして ふるさと文化芸能祭



11月3日(火)文化の日に第37回古牧地区ふるさと文化芸能祭が開催されました。

今年はコロナ禍の中、芸能部門を中止しました。展示部門も感染予防を徹底し、「来場者の手指消毒の徹底・検温・受付名簿作成・会場内の定期的な換気」「ソーシャルディ

タンス確保」「入場制限・作品展示方法の工夫・来場者の誘導」など考えられる対策を駆使し開催しました。

初めて展示用パーテーションを使用し、換気を行うために、窓際の作品展示を少なくし、作品の見やすさ、来場された人の流れを一方方向で見られるよう展示しました。

展示部門は、61名の方が、書、手芸・工芸、絵・写真・ちぎり絵、生花など力作の作品を展示。和室では、「いけばなこども教室」が開催され小中学生のすばらしい作品が飾られ、184人の方が来場されました。

(公民館部)



🗨️ 寄せられた感想を紹介します。

- ・展示の仕方がすばらしかった。(女性)
- ・展示方法が、落ち着いた感じで良かった。(パネル展示方法など) 展示時間が短くなって残念に思う。(上高田区 男性)
- ・毎年見に来ている。大きい作品があり驚いている。(川端区 男性)
- ・日頃の成果が出ていてすばらしかった。(女性)



社会を明るく する運動の長野県 作文コンテスト 入賞作文の紹介



古牧地区住民自治協議会では古牧地区保護司会ほか関係団体が社会を明るくする運動推進委員会を作り「古牧地区社会を明るくする運動」に取り組んでいます。

“社会を明るくする運動”は犯罪や非行の防止と犯罪や非行を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築く全国的な運動です。

毎年、地域の多くの皆さんに集会にご参加いただき講演や子どもたちの作文を発表しています。今年はコロナ禍の中、集会を取りやめましたので、昨年実施されました「第69回社会を明るくする運動 長野県作文コンテスト」で審査会委員長特別賞を受賞した作文を紹介します。

(総務部)

長野県作文コンテスト審査会委員長特別賞受賞作品

気遣いの心を持って

長野日本大学中学校1年 藤浦 温

「なんで勝手に縫ってんのよ。足先がすごく嫌な感じがしたんだけど、頼んでいないことしないでよ。」

学校から帰宅するなり姉はものすごいけんまくで僕に大声を上げた。何で怒っているのだろう。僕は訳がわからなかったが、黒いくつ下を見せられてすぐに理解出来た。「いい子ぶって、ありがた迷惑。しかもくつ下の色は黒なのに穴をふさいだ糸は白って、自己満足でしょ。やってることが貧乏くさいよ。これからは絶対にやらないでよ。」僕の頭は一気に真っ白になった。姉から言われた「貧乏くさい」という一言が胸の奥を締めつけた。

知らずに涙があふれて号泣していた。僕が小学三年生の頃世界には貧しくて、靴をはかずに生活している子供達が沢山いるというニュースを見た。僕のようにサッカーをしている子供が靴がない為に素足でボールをけていた。そのニュースを見た時の驚きは今でもはっきり覚えている。

僕にとって当たり前なことでも世界の中では特別になる場合があることをその時初めて知り、幼いながらにとってもショックだった。

子供は成長と共に足のサイズが変わるので僕の場合はほとんどはいていなくても買い換えることもしばしば。買い換えることに何の疑問を持たずにきた僕だったがそのニュースを見た日から自分の気持ちの何かが変わった気がした。

僕はくつ下にすぐに穴が開いてしまう。今までの自分だったらいくら新しくしても穴が開けばはかなかったがこれを機に自分で縫って穴を塞いでおくことを決めた。

歴史探索

ぐるりおがまち

西和田区



再建された「芭蕉句碑」

「芭蕉・何丸」句碑

古牧郷土史研究会 磯野久夫

❖ 芭蕉句碑 (和田神社境内)

松尾芭蕉 江戸時代の俳人、俳諧を芸術の域まで高め蕉風を創案。各地を旅して多くの名句や紀行文(奥の細道)を残しました。

「世を旅に 代かく小田の ゆきもどり」

大正時代各地に発句の会が生まれ、西和田では各人の作品を、木の額に納め絵馬にして、西和田の地蔵堂に納められています。この碑は、

その頃まだ裁縫を習っていなかった為、母に縫い方を教えてもらった。上手に縫うことはなかなか難しいことだったが何度も練習した。そのうちにサッカーの練習時に破れたTシャツやズボンも自分で修繕するようになっていた。

いつものように僕はくつ下の穴を縫っていたらふと姉のくつ下が目に入った。親指に大きな穴が開いていた。何の気もなくついだと思い縫ってしまった。姉はそのことでかんに怒ってしまった。母が姉に謝りなさいと叱っていた。姉も泣いていた。姉は小声で「ごめんなさい」と言ってきたように思う。

しかし僕は絶対に許したくなかった。「貧乏くさい」僕に対しての言葉には聞こえなかった。姉は僕が開いた穴を修繕している理由を知っている、これは差別だと思った。僕はその言葉に強い怒りをおぼえた。

その日以来、僕は姉とは口を聞かなくなった。姉は気まずそうに僕に気を遣って、明るく振る舞っていた。そんな姉の気持ちにこたえる余裕はなかった。とにかく姉に対して腹が立ってしかたがなかったからだ。姉と口を聞かない日が一カ月続いていたある日、「最近いつもぶすつとしてるけど、温のまわりだけ空気悪くなってよ。笑顔どうしたの？みんな温と一緒にいるの嫌になっちゃうよ。いつまで続けてるの、自分でも嫌じゃないの」突然母に言われてドキッとした。

確かに僕は知らず知らずのうちに周りの人に気を遣わせていた。きっかけは姉だった。しかし姉は自分が言ったことを反省し泣きながら謝ってきた。それにもかかわらず僕は姉を無視してきたのだ。「人の過ちを許すことはとても難しいけれどそのことで、周りの雰囲気まで変えてしまうのは良くないんじゃない。それを学校でしたらどうなる？」母は言った。

この一カ月僕は家で笑わなくなっていた。わざと暗くし顔も怖くしていた僕が家の中でしたこの最悪な行動を社会や学校でしたらどうなるだろうか。間違いなく空気が悪くなり問題になるだろう。僕のしたことは一体何だったのだろうか。自分の気持ちの思うがままに行動していたら、社会はぐちゃぐちゃになってしまう。

僕は突然罪悪感に襲われた。くつ下のことを姉から言われ、感情的になりそれを一カ月も続けたことを、とても後悔した。今日、姉と話し合おう、そして今までした自分の行動を謝ろうと思った。そう決めたら僕の心は一気に晴れやかになりとても爽やかな気持ちになった。人は一人では生きていけない、だからこそ僕のように思いのままに行動するのではなく一人一人が相手の立場になって、少しだけ空気をよんで生活していけば、穏やかな社会になると思う。僕も優しい心遣いができる強い自分になれるよう努力したいと思う。

お地蔵さんの伝説（民話）にちなんで、凝石岩に刻んだ風化がひどく、平成10年戌寅の御柱祭の年に、黒御影石で再建されました。

❖❖ 何丸句碑（和田神社境内）

宝暦11年（1761）長野市吉田に生まれた「何丸」は、文化・文政の時代（1804～1829）の俳句の研究家として知られ、多くの門人を指導したと伝えられています。

「押さじとも 明るべく花の 戸口哉」

この句は、西和田の発句会のみなさんにより、常夜灯の柱に刻まれましたが、いつの日か折れて放置されていました。平成18年（2006）酉戌年「仁科良幸」氏によって再建されました。



再建された「何丸句碑」

コロナウイルス感染症の感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



しゃばえんびつ



「今の私」

本年78才、誠に健康そのものです。まず私の一番の思い出話から入ります。今から7年前に友人2人と私の3人で北海道ツーリングをした事です。特に印象に残っている所は霧の摩周湖です。私達が行った日は、とてつもなく良く晴れていて最高でした。そして5日間で北海道の外周を廻ってきました。食べ物も皆おいしくて特にジンギスカンは最高でした。

さて私71才で健康のためにとシルバー会員になり色々な仕事をしております。駐輪場の整理、リサイクルプラザの自転車の組み立て、その他公園の草取り、秋は落ち葉掃き、安茂里支所の広報配達と忙しい日々を送っております。その他に小さな畑を借りて野菜づくりにも励んでおります。種類は春から秋に15種類ほどやっております。種代、肥料代と大分かかりますが、収穫の喜びが大きいですね。

最後に一言「健康は宝です」

(金井 弘)



12月から1月までの主な行事実施日 ▶▶▶ (回覧でお知らせします)



古牧地区の世帯数と人口

令和2年11月1日現在

11,640 世帯

26,828 人

(男 13,236人

女 13,592人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259-8359・FAX219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 小林 信男
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 (有)小池印刷



HP
ご覧ください